

研究  
主題生徒自らがより適切な表現を追求する授業を目指して  
—「書くこと」における学習活動と単元構想の工夫を通して—

## 第1学年国語科学習指導案

指導月日 令和2年10月7日  
所属校名 白石市立東中学校  
氏名 菊地 芙美子

## 1 単元名

報告文を書いて互いに読み合おう  
～読み手に事実を正確に伝える文章を書こう～

## 2 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
〔知識及び技能〕(1)ウ
- (2) 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

## 3 本単元における言語活動、教材

〔言語活動〕文化祭について報告の文章を書く。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)イ）

〔教材〕「案内や報告の文章を書こう」（東京書籍「新しい国語 一」）

仙台七夕花火祭に関する新聞記事（河北新報朝刊、令和2年8月5日）

## 4 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語、第1学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の(1)エを、重点を置く指導事項として取り上げ、〔知識及び技能〕(1)ウと関連付けて構想した。この単元を通して、どのような語句をどのように使って書けば事実を正確に伝えることができるのか考えさせたい。

## 5 生徒の実態〔第1学年3組28名〕

本単元は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の4つ目の単元である。授業実践Ⅰ期の「読み手を意識した構成で書こう」では、日常生活から自分について振り返り、書くための材料を集め、伝える内容を考え、材料を分類するなど整理すること、また、段落の役割を考えながら、伝えたい内容にふさわしい文章構成で書くことを目標に学習した。生徒は、読み手を意識した書き方について、「伝えたいことに応じた材料が不足している」「伝えたいことに応じた材料がある」「伝えたいことに応じた材料が全くない」の3つの例文から、伝えたいことと関連付けた「材料の選択」と、知っていることから知らないこと、大まかなことから細かいことを並べるなど「材料の配置」について学習した。単元の後半には、学習した「材料の選択」と「材料の配置」を生かして「『白石市』の説明文」を書く学習活動を設定した。振り返りの記述からは、単元の前半で学習したことを生かして説明文が書けたという生徒が多かったものの、互いの文章を読み合う時間が設定できなかったことも

あり、学んだことが活用・適用できているのかについて、生徒同士で具体的に確かめ合うことができなかった。

## 6 指導観

生徒自らがより適切な表現を追求しながら文章を書くことができるようになるために、本単元では、第1時に書いた報告の文章を読み直し、第3時で報告の文章を修正していく時間を設定する。

第1時は、報告の文章には、相手や目的に応じて様々な伝える形式があることを捉えさせる。今回の報告の文章は、読み手が場面を想像できるように適切な表現でまとめる活動に重点を置くため、何の活動について書くのか事前に分担を行い取り組ませる。

また、読み手がその場面をより鮮明に思い浮かべるためにはどのような表現が適切か、数字や固有名詞、会話の引用が含まれる新聞記事を教材として活用し捉えさせていきたい。

さらには、第3時で書き直す時間を設定し、学んだことを活用・適用させる。この単元の学習を通して、客観的に事実を伝える書き方について習得させたい。

## 7 研究主題との関連

本単元では、手立て1「適切な表現に気付く学習活動の設定」、手立て2「学んだことを活用・適用する単元の構成」の二つの手立てを講じて研究主題に迫りたいと考える。

## 8 単元の指導と評価の計画

[単元の評価規準]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	①「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)	①積極的に表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、学習課題に沿って「報告の文章」を書こうとしている。

[単元の全体計画] (4時間扱い 本時2/4)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<b>報告の文章を書く①</b> ○ 報告の文章に必要な情報と目的に応じた形式の選択や適切な表現について考える。		
2 本時	○ 報告の文章を読み直し、事実を正確に伝える文章になっているか確かめる。	[思考・判断・表現] ①	観察 原稿用紙 ノート
3	<b>報告の文章を書き直す②</b>	[主体的に学習に取り組む態度] ①	観察
4	○ 読み手の立場に立って文章を読み、目的や意図に応じた表現になっているか確かめる。 ○ 単元の学習を振り返る。	[知識・技能]①	第1時と第3時の文章 振り返り用紙

## 9 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

本時は、読み手に事実を正確に伝える文章とはどのような書き方がよいのか捉えるために、新聞記事特有の簡潔で正確な情報で構成され、かつ、数字や固有名詞、会話の引用が含まれる新聞記事を教

材として活用することとした。生徒が身近に感じられる題材として、仙台七夕花火祭の記事を取り上げる。記事には、「楽しかった」「嬉しかった」「苦労した」「盛り上がった」などの主観的な表現は使われていない。しかし、読み手は、場面の様子や書き手の伝えたいことを想像できる。生徒には、会話が引用されていたり、誰が話したことか分かるように固有名詞を使ったり、比較できる数字を用いたりするなど、具体的で正確な情報を用い出来事を外側から見ているように記述しているという書き方の特徴に気付かせたい。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ●予想される生徒の反応	形態	指導上の留意点 ☆努力を要する生徒への具体的な支援	評価規準・ 評価方法等
導入 5分	1 学習課題を把握する。 読み手を意識した書き方について考える。	一斉	・事実を正確に伝える書き方について学習することを説明する。	
展開 35分	2 教師の用意した資料を読む。 この文章の伝えたいことは、どのようなことでしょうか。 ●早くコロナウイルスが終息してほしいということ。 ●早く七夕花火祭ができるようになることよいいということ。 ●何とか市民を喜ばせたいということ。 伝えたいことを直接書いていないのに、なぜ、伝えたいことが読み取れたのでしょうか。 ●固有名詞を用い、話した内容を引用することで、花火祭に込められた願いが伝わりやすくなっている。 ●打ち上げられた花火の数が昨年度と比較できるように書かれているので、少ない数でも喜ばせたいという思いが読み取れた。	一斉	・「仙台七夕花火祭」の記事を電子黒板に映し読み上げる。 ・気付いた生徒から挙手をして発表し、学級全体で共有する。 ☆記事の内容からどのようなことが思い浮かぶのか確認する。 ☆どの表現から伝えたいことを読み取ったのか考えを聞く。 ・できるだけ多くの考えを共有したいので、気付いた生徒から挙手をして発表させる。 ・事実を伝える報告の文章では、事実を正確に書くことで、読み手がその人物の心情を想像できたり、場面の様子も思い浮かべたりすることができるということを捉えさせたい。	
	3 報告の文章の中心的な内容を確認する。	一斉	・自分の担当する活動の具体的な場面について考えるように指示をする。	

<p>「楽しかった」「苦労した」「盛り上がった」という事実を、これらの言葉を使わずに伝えるためには、何を、どのように書くのがよいですか。</p>	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の報告の文章で伝えたいこと「楽しかった」「苦労した」「盛り上がった」などを、これらの表現は使わずに書くことを確認する。</li> <li>・ノートに考えを書かせる。</li> <li>・板書することで生徒の考えを共有し、自分の文章を見直す際に活用させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゴール付近の盛り上がりについて、周りの声援の言葉を具体的に書く。</li> <li>●結果発表の喜んだ場面を、数字や友達同士での会話を取り入れて表現する。</li> <li>●誰が話していたか分かるように、固有名詞を入れながら書く。</li> </ul>	個別	<div data-bbox="772 927 1257 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>手立て 1</b></p> <p>【適切な表現に気付く学習活動の設定】</p> <p>指摘箇所を読み直し考えることで、目的に応じた適切な表現について考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の書いた文章について読み直し数字や引用、固有名詞などの表現が取り入れられそうな部分について傍線を引くように指示をする。</li> <li>・傍線部分をどのように修正していくのか、またその理由について、原稿用紙の余白に書くように指示をする。</li> <li>・自分では気付かなかった視点で修正できる部分があるかもしれないので、自分の文章の見直しが終わったら、周囲の生徒と原稿用紙を交換し読み合ってもよいこととする。</li> <li>☆数字、会話、誰が話したことかなどについて、取り入れられそうな表現を確認しながら進める。</li> <li>・全体で共有するために、数名の生徒の原稿をカメラで撮影し発表させる。</li> <li>☆生徒の修正部分を見せることで、どのように見直せばよいのか具体的に捉えさせたい。</li> </ul>	<div data-bbox="1283 927 1433 1236" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現]① 原稿用紙</p> <p>・ここでは、自分の文章を見直し、数字や固有名詞、会話の引用を用いて文章を修正しているかを確認する。</p> </div>
<p>4 文章を読み直し、表現を考える。</p>			
<p>修正したほうがよい部分をどのように書き直しますか。それはなぜですか。</p>			

<p>終 結 5 分</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>報告の文章を書くときには、 どのようなことに注意して書 けばよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●喜怒哀楽の表現ではなく、そ の時の様子を数字や会話の引 用、誰が話したのかなど正確 に書く。</li> <li>●場面の様子を、自分が離れた 所から見ているように書く。</li> <li>●場面の様子をできるだけ詳しく 書く。</li> <li>●読み手が想像できるように書 く。</li> </ul>	<p>一斉</p>	<p>手立て2</p> <p>【学んだことを活用・適用する単元の構成】 本時の学習内容を振り返ることで、次時 の活動に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに箇条書きで2つ以上書かせ る。</li> <li>・数名に発表させ、次時の活動へとつ なげる。</li> </ul>	
----------------------------	--	-----------	--	--

### (3) 本時の評価

【思考・判断・表現】①の「『書くこと』において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている」状況を、「読み手の立場を想像し、自分の文章の修正する部分に傍線を引き、表現を見直している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、評価する。

ここでは、生徒が以下の点を踏まえながら文章を書き直しているかどうかを見る。

【キーワード】数字や固有名詞、会話の引用の表現

第2時で実際に評価する場面では、生徒が第1時で書いた報告の文章の修正する部分について、生徒がどのような表現で文章を整えたのか、第1時と第2時の文章を比較し評価を行う。

### (4) 生徒に書かせたい文章の例

#### 【台風の目】

私たちは、文化祭までに「台風の目」を練習しました。最初の練習では、ただ速く走れば勝てると思っていた人も多かったようですが、メンバー構成やスピードのコントロールなど考えることがたくさんあり、クラスで作戦を立てる際には、練習時間が終わっても「内側の人はしっかり棒を持ってね」「メンバーを入れ替えた方がいいよね」などと、作戦が次々に挙がっていました。

当日は、各クラス、声を掛け合いながら競技に取り組みました。競技中には、「頑張れ」「5秒差だよ」などの声も聞かれ、飛び跳ねながら応援する姿も見られました。

私たち3組は3位という結果でしたが、担任の先生は「タイムが一番縮めたのは3組だよ」と話していました。私たちはこの言葉を聞いて「本番に強いね」「来年もまたやりたいね」などと話しました。

### 【玉入れ】

レクリエーションの一つ「玉入れ」は簡単そうに見えましたが、実際にやってみると、思っていたより難しく感じた人が多かったようでした。

1回目、1個も入れることができなかつた私に「多めに持って入れると入りやすいよ」と友達がアドバイスをくれました。このアドバイスは効果的で、一度に3つも入れることができました。この結果をもとに私も友達にアドバイスをすることができました。クラス全体でも2回目のほうが記録もよく、10個以上も多く入れることができました。「やった」「数が増えた」「1位になれそう」などと、友達同士で話している姿が多く見られました。

結局、私たちのクラスは3位という結果でしたが、競技が終わった後「練習よりは入ったね」「本番に強いね」「もっと練習すればよかったね」「作戦はよかったよね」など、みんな口々に話していました。

### (5) 準備物

- ・教師 教科書、タブレット、電子黒板
- ・生徒 教科書、ノート、各自が書いた報告の文章

### (6) 板書計画

報告文を書いて互いに読み合おう

↳読み手に事実を正確に伝える文章を書こう

#### 課題

読み手を意識した書き方について考える。

#### 家族に伝えたいこと

- ・楽しかった
- ・大変だった
- ・苦労した
- ・盛り上がった
- ・たくさん笑った
- ・競い合った

#### 事実を正確に伝えるために

- ・声援の言葉を具体的に書く。
- ・数字を使う。
- ・友達同士の会話を取り入れる。
- ・固有名詞を使いながら書く。

#### 報告の文章を書くときに注意すること

- ・その時の様子を数字や会話の引用、誰が何を話したのかなどが分かるように具体的に書くこと。
- ・場面の様子を、自分が離れた所から見ているように書くこと。